

である。たとえば、PRINT "X=" ; X<sub>1</sub>と PRINT "X=" ; X<sub>2</sub> がかなり違った出力を与えるものもあった。したがって、念を入れてレビューをするためには実際に機械を十分に使用してみないと細かいことは言えないであろう。

以上ベーシックという言葉は、行列演算(MAT文)を除くとマイクロ・コンピュータのものが大型機のTSS用のものより格段と機能アップしていることがわかる。

ただし、どの機械にもほとんど手直しなしで使えるプログラムを書くためには標準のベーシックの文法の範囲内で書いておくのが良いと言えるだろう。長期にわたってご愛読いただいたことに感謝し拙稿を終る。

## 参 考 文 献

- [19] APPLEII REFERENCE MANUAL, Apple Computer Inc. 1979
- [20] THE APPLSOFT TUTORIAL, Apple Computer Inc. 1979
- [21] BASIC PROGRAMMING REFERENCE MANUAL, Apple Computer Inc. 1978
- [22] PC-8001 N-BASIC REFERENCE MANUAL, NIPPON ELECTRIC Co. Ltd, 1980
- [23] PC-8001 User's Manual, Nippon Electric Co. Ltd, 1980

## 会 員 近 況



国士館大学  
工学部基礎教室 矢島 謹一

国鉄を退職して5年になりました。国鉄時代は忙しく追回されていましたが、ただいまはだいぶ余裕ができました。交通問題研究会にも出席しています。その折に横山先輩との間で国鉄のことがよく話題に出ます。国鉄のいろいろな問題の中に、人事の合理化の問題があります。合理化というと、一般には首切りと考えるのが普通ですが、私は昇進、配置、教育などの合理的な推進を指しています。人事問題に対する不満は職員の志気に悪い影響を与えているように思えます。これはすべて仕事、能力、教育訓練等に関する評価の問題が根底にあると思います。単に国鉄だけの問題ではないのですが、昔からの難問題であるために、どうせうまくはできないとして、お茶を濁しているきらいがあります。評価の手法や最適な評価の設計などの技術の開発もORの分野でとりあげてよいと思います。難問題とわかってとりくむのはOR的でないかも知れませんが、年輩者ならよいのではないかと思います。

東京電力  
東電学園研修部 雨宮 幸雄

サラリーマン生活もあますところ2年少々となりました。技術系社員の研修が私の使命ですが、研修の中で気がかりなものがSEの養成のことで、

SEといってもコンピュータ屋のそれではなく、ひと

りで言えば問題の本質を考え、その解決のためのシステムを設計する人というのがイメージです。

演習中心で略3ヵ月、20名単位で実施しております。初期の頃は手探りで、まさに暗中模索でありました。8年を経た現在では社内の各部署からその意義を認められ16回目を実施中です。

振り返って、考える力を養うことが果して研修で可能かとか、資質論などいくつかの課題が残されておりますが、研修の実績からみると仕事に対する新しい目を開くという点では評価が定着したようです。

それだけにシステムを考える人を作るということの怖さと責任を感じております。一般的にORの実務家としてのSEの養成についての声が小さいように思えます。そのような場と機会が増すことを望んでやみません。

防衛大学校  
社会科学教室管理学科 土井 寛

4年前自衛隊の制服を脱ぎ、防衛大学校でコンピュータ応用、防衛管理組織論および情報管理を、産業能率短期大学において統計学およびORを教えています。

昔から数理的な事柄に興味をもってはいましたが、自衛隊では部隊と本部とを往復し、一般的な行政事務に多くたずさわってきました。したがって統計、ORについては、側面から見る機会が多かったのです。この種数理的技法は、種々業務について解を探り得るすばらしい技術ですが、抽象要素、不確定要素、確率要素の多い社会科学の分野ではオールマイティではありえません。限界を知りつつ適用することが大事だと思います。また、内容については、情報処理学会誌などでもそうですが、とかく定式化、解析法などの技術的論文に片寄りすぎます。OR学会誌には時折見られるように、ユーザー側から見た論文がもっとあってよいと思います。それがORを普及する1つの道ではないでしょうか。